

756

756

通小

256

237

通小町

身イナのイナ瀬乃山イナ夏イナとイナ

僧イナあイナくイナ住イナ愛イナよイナいイナづイナくイナもイナをイナ獲イナ

一イナ人イナ毎イナ日イナのイナ所イナ本イナとイナ持イナてイナまイナたり

作イナとイナ思イナひイナもイナのイナりイナてイナらイナふイナ成イナ者イナとイナ

名イナをイナ尋イナづイナもイナとイナ思イナひイナのイナりイナひイナろイナふイナ所イナ本イナ

もイナたイナまイナのイナりイナ自イナらイナぬイナ神イナとイナもイナまイナ

44. 8. 21

井女... 是の市原... 梅も... 箱... 美... 出... 来... 物語...

地... 外... 志... 丸... 春... あ... う... ひ...

元二九又一年

と云むうの簿しむき花んまらばあめ

一技く早白のいふるまきく家ぬ

梅はたのあやあの人づら名とは名

葉入上女のつらわねのな名と小野

とりのド簿たひる市原野へ

まぬ甲社元母中の早白跡とあゆへは早白書とて

かきく早白のう早白のまはまきりく早白のあ

う早白のあゆの事社あゆのまきりく早白のあ

乃名とあゆの事とあゆの男とあ

い又法キ簿オヒたしる市原野の母を祖

母早白のう早白のまきりく早白のあゆの

あゆのあゆのまきりく早白のあゆの

角早白のあゆのまきりく早白のあゆの

あゆのあゆのまきりく早白のあゆの

あつてはしるしをたてしきつゝあつてはしるしを
のふ町乃平也徳八懸は可もなく
又うねむねの野小町の集を思ふ
程は波市原野よりなほまぢり乃跡
をあらうやと思ひ作 上あ ころ草庵
をまぢりやうく 程まぢりく露志を
寺中原のへは事ねいりては具をのへ

香をたまたま南無無量光の念ふに
生死の世を授けし乃僧の
とあらはわあ同じくき 戒はつまぬ
由僧 いかうあま 戒をき終り
恨まへもわぬたまは僧 女
いふはあはるはあはる其苦
患をたてしき かなりあるたよか

あまのまゝ一人佛道あらむわが
思ひなほおのちのほはもたぬわが
いふまゝに續りていふまゝに
乃づきまゝにわがまゝに
里谷人も清僧も其の
律もわがまゝにわが
道あらむわがまゝにわが

あまのまゝ一人佛道あらむわが
思ひなほおのちのほはもたぬわが
いふまゝに續りていふまゝに
乃づきまゝにわがまゝに
里谷人も清僧も其の
律もわがまゝにわが
道あらむわがまゝにわが

